

神田錦町「テラススクエア」の屋上農園産ブドウでワイン



東京都千代田区神田錦町の複合ビル「テラススクエア」の屋上農園で栽培したブドウと、富山県氷見市産のブドウを合わせた初のワイン「URBAN VINEYARD KANDA-NISHIKICHO 2019」が300本完成しました。このワインは、テラススクエアの事業主である当社、株式会社博報堂、住友商事株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社大修館書店、神田エリアの企業、氷見市のワイナリーSAYS FARM（セイズファーム）が屋上庭園でブドウを栽培、ワイン造りを共同で行う「URBAN VINEYARDプロジェクト」で製造したものです。

同プロジェクトは、ワインを通じたコミュニティづくりを目指して、2017年より毎年ワインイベントをテラススクエアで開催。この街で暮らし働く人、ワイン関係者たちと少しずつその輪を広げてきました。（2020年は新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、イベントは中止。）

2021年秋には、テラススクエア屋上農園でブドウ畑を眺めながら、「URBAN VINEYARD KANDA-NISHIKICHO」の新作ワインを楽しむイベントも予定しています。（新型コロナウイルスの感染状況により予定を変更する可能性があります。）

■テラススクエア屋上農園（ブドウ畑）

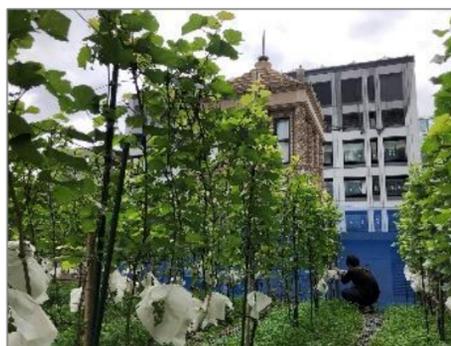
2015年5月に開業した地上17階地下2階建の商業施設・カンファレンスホール・オフィスからなる複合施設「テラススクエア」の地上13メートル、広さ50平方メートルの屋上農園。赤ワイン用のブドウの品種ピノ・ノワールを30本植えています。

<所在地>

東京都千代田区神田錦町三丁目22番地



建物外観



屋上農園



周辺地図

■URBAN VINEYARD KANDA-NISHIKICHO 2019（非売品）

世界のブドウ品種の中でもとりわけ栽培が難しいとされるピノ・ノワール。神田の風土を感じながら順調に生育し、丁寧に収穫された健全なブドウを、同時期にセイズファームで植樹をしたピノ・ノワールと一緒に醸造。神田と氷見の地のピノ・ノワールが、このプロジェクトの想いと共に、1本のボトルに共存していくことを目指している。

赤い果実の香りと繊細な味わいが特徴のエレガントな赤ワインとなるよう、抽出は抑えて発酵を促し、古樽を使用し熟成を行った。ワインボトルの裏面には、URBAN VINEYARD プロジェクトと神田錦町をイメージしたロゴが描かれている。



ロゴデザインは皆川 明氏（minä perhonen（ミナ・ペルホネン）デザイナー）、品種はピノ・ノワール、アルコール度数は12パーセント、容量は740ml

<リリースに関するお問い合わせ先>

安田不動産株式会社 経営企画部 担当：志村（しむら）・平田（ひらた）
TEL 03-5259-0517 FAX 03-5259-0532